長洲町立長洲小学校　校長便り　No.69

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和5年2月8日(水)

雑感

立春を過ぎ、今が正に三寒四温の時期であろう。大寒の期間を過ぎてからは、何となく春を感じているものの、朝の冷え込みが強い日はどうしても背中が丸くなる。

この時期になるとスタートする仕事がある。卒業証書の準備、来年度学校運営構想の提示、多くの仕事がある中で大切にしていることは、卒業生へ贈る言葉の準備だ。私にとってはすべてが教え子だ。その一人一人をみて、将来を想像し、全員に違う言葉を選定する。それを色紙にしたため、卒業記念として心を込めて書く。私の自己満足なのかもしれないが、それくらいしか私にはできない。書道をやっていて良かったとこの時期だけは改めて思う。卒業生の未来を祈り、書き綴る。

私の中学時代　その③　～音楽に興味をもち始めました～

中学校に入学してから暫くは生活リズムに馴染むことができず、少々面食らって生活していた私ですが、慣れてくると少年から青年への脱皮を目指し、行動範囲、交友範囲を広げていきました。小学校時代から興味のあった野球はともかくとして、中1の頃から興味を持ち始めたのは音楽です。その頃は確か山口百恵さんが引退しピンクレディーが人気絶頂?の頃でしょうか、更には松田聖子さんや中森明菜さん、小泉今日子さんらが相次いでデビューしてくる頃です。しかしながら当時の私は、いわゆるアイドルといわれる方々には多少は興味があったものの、先ず興味が出てきたのは映画音楽でした。実は5年生か6年生だった頃、「スター・ウォーズ」という映画を観たんです。その物語に感動し、ついでに音楽にも興味が出たというわけです。映画音楽については映画を観る暇もお金もないので、立ち消えするのですが、私の通った楠中学校は下校時のBGMがビートルズの「レット・イット・ビー」だったんです。これがいつでも鼻歌として出てくるようになって、「誰の歌だろう?」とか考えているうちに、周りの仲間がいわゆるLP（今の子供達は知らないでしょうね。）を貸し借りするようになり、「俺にも録音して!」なんて頼むようになりました。当時、コンポーネント・ステレオなどは一部の家庭にしかなく、その仲間の家に借りたLPを持ち込んで、カセットテープに録音してもらうのです。そしてそれを家にあった、壊れる一歩手前くらいのラジカセで聞くわけです。テープを巻き込んだりしないようにたるみをとったりして、慎重に再生ボタンを押していたのを覚えています。録音のレベルが低すぎたり高すぎたりすると聞きにくいので、また友達に頼んで録音しなおして…。当時はエアチェックなんて言葉も流行りました。ビートルズは今でも聞いています。学年が進むにつれ、中学2年生の頃は長渕剛ばかり聞いていたようです。

この頃から新たに興味を持ち始めたのがラジオの深夜放送でした。当時は空前の漫才ブームで、ビートたけし（北野武）さんの番組が一番面白かったような気がします。今もこの番組あるみたいですね。

中学時代というのは多くのものに興味を持ち、少し背伸びして大人に対抗していく、越えようとしていく時期ですね。今の小学生は少し情報が多すぎて、逆に、何に興味を持っていいのか分からない、興味を持っても長続きしないという状況が続いているようです。私達からすると、少し可愛そうな時代なのかもしれません。でも、後ろ向きの考え方では、子供達を導くことはできません。私達大人は、子供達に色々なことに興味を持たせることは、責任かもしれません。あれもダメこれもダメではなく、情報の取捨選択をさせながら、間違った時は指導しながら、多くの経験をさせていくことが大切です。保護者の皆様、これからの数年間、子供達の予期せぬ興味関心に、驚きませぬように。

シリーズ「自分を語る」#69

伊倉小学校に異動となり、気持ちを新たに伊倉小学校に挨拶に向かいました。校門を抜けますと、「ワッ、花が多い!」という印象でした。きっと落ち着いた学校だと思いましたが、そう簡単にはいきませんでしたね。

校長室に入り、当時の校長先生と世間話をしながら、気になっていた話題には触れませんでしたね。気になっていた話とは担任希望のことです。私は玉名町小学校で高学年の担任しか経験がありませんでしたから、当然そうなるものと思っていましたが、逆に別の学年だったらどうしようという不安もありました。校長先生は丁度ご退職ということで、私はそのあと教頭先生とお話しすることになりました。教頭先生から切り出されたのが学級担任のお話でした。

「澤田先生、3年生を担任して頂けませんか。」

いやいや、この時ばかりは面食らいました。どうしたらいいのか分かりませんでしたね。それまでやってきたことが通じるのか?　子供達の実態は?等々、不安も相まって、「私の希望はあくまで高学年です。」なんて言って、伊倉小学校を後にしました。程なくして、新校長先生から連絡がありました。

「学校運営上、どうしても澤田先生に3年生を鍛えてほしい。」

学校運営上ですから、受けない訳にはいきませんでした。何でも、2年生の時は2クラスで、かなりのやんちゃなクラスだったとのことで、それが3年生になって1クラスになる、39名のクラスになるということなのです。その時浮かんだ言葉が、玉名町小学校の校長先生からの言葉、

「求められての異動です。」

でした。この頃、自分に求められているもの、自分はどのようなパフォーマンスができるのか、そんな疑問の答えをいつも考えていましたし、不安を煽る異動でしたので、もしかしたら自分に求められていることは、これまで行ってきた「学級経営」かもしれないと思うようになりました。しかし、私は、5・6年生の学級担任には多少なりとも方法論を持っていると思っていましたが、それ以外の学年は自信がありませんでした。それからしばらく悩みましたが、「聞き直るしかない!」との結論に至り、3年生の学級経営の本を買い、精神的な発達について学びました。まだまだ勉強しないといけないなと改めて思うきっかけとなり、私にとっては良い経験の3年生担任でした。しかし、色々な本を読めば読むほど、ある種の?マークが私に付きまとうことになりました。その疑問はこうです。

「高学年でも、低学年でも、学級経営の方法はあまり変わらないかも?」

4月、3年生担任として、出会いを前に着々と準備を整えていきました。いよいよ新年度始業式の日を迎えました。当時のことをふり、始業式というのに騒がしいこと、儀式というのに子供達の緊張感の無さが気になりました。そんな中、新職員の紹介と学級担任発表が行われました。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）